

キャリア教育全体計画

学校の教育目標 **ただ この時に燃えよ ～顔はひまわり、心は思いやり～**

秋田県学校教育の指針 中央地区教育の重点 潟上市学校教育の重点目標と努力事項	目指す生徒像 4Sを大切にする生徒 1 STUDY (学習) 2 SPORT (体づくり) 3 SPIRIT (精神) 4 SMILE (ほほえみ)	生徒の現状 (定性的・定量的把握) ○学校行事や部活動に真剣に取り組み、生徒会を中心に進んであいさつ運動に取り組んでいる。 ○R4県学習状況調査の結果から、「ふだんの生活や社会に出たときに役立つよう、勉強したい」、「将来は人の役に立つ人間になりたい」と考えている生徒が多いことが分かった。 ●R4県学習状況調査の結果から、「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合が全県平均よりも低かった。学校教育活動全体を通して、将来に展望がもてるようなキャリア観を形成していく必要がある。 ●新興住宅地が多く、また核家族が多いため、地域との関わりが希薄である。 ●課題対応能力 (プラス思考、最後までやり通す忍耐力やたくましさ等) の育成が必要である。
	本校のキャリア教育の重点実践事項 1 自分の特色や将来の生き方を考え、自分にふさわしい進路を選択し、その実現に向けて努力するよう支援する。 2 体験的な活動を充実させ、地域との関わりから生き方や職業について深く考えるようにするために、地域の人、もの、ことを生かす。 3 職業や上級学校に関する適切な進路情報を収集して、計画的にガイダンス・進路相談を進めるとともに情報の発信を積極的に行う。	

基本方針 1 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全般との関連の重視 ・全教育活動を通じて探求的な学習を取り入れ、生徒が主体的に課題を追究し、自己決定する力を育成するための方策を工夫する。 ・協働的な学習を通して、一人一人のよさや適性を大切にし、生かしていこうとする態度を育てる。 2 資質・能力の育成につながる体験活動の充実と事前・事後指導の工夫 ・体験活動の事前・事後指導を大切にし、目標の達成のために計画を立てて実行する力や成果と課題を今後に生かそうとする態度を育てる。 ・地域との連携を進め、様々な価値観や生き方に触れる体験を通して、夢や目標を育み、地域の一員としての在り方について考えを深められるようにする。 3 生徒一人一人のキャリア発達の促進をねらいとした、教員のキャリア・カウンセリングの充実 ・二者面談や三者面談を通して、生徒の思いや願い、また家庭の願いなどを適切に把握し、主体的な進路選択ができるように、情報提供と支援を継続的に行う。
--

キャリア教育の目標
夢や希望をもって、主体的に自らの進路を切り拓く生徒の育成

キャリア発達に関わる達成すべき課題 (現状と目標の解離から捉えた生徒の課題)				
人間関係形成・社会形成能力 【かかわる】	自己理解・自己管理能力 【みつめる】	課題対応能力 【むかう】	キャリアプランニング能力 【きめる】	意欲・態度 【すすむ】
●【むかう】・将来の夢や目標をもつ (計画立案) ・自分が望む職業に就けるよう勉強する (計画立案) ●【みつめる】・苦難を乗り越える手段を模索する (前向きに考える力) ・普段の生活や社会で役立つよう勉強する (自己の動機付け)				

各学年の重点目標		
第1学年	第2学年	第3学年
1 自己の特色や適性について考え、学級・家庭など集団の一員としての在り方について考えられるようにする。 2 身近な働く人々に目を向け、働くことの意義や職業について理解を深められるようにする。	1 地域や社会に目を向け、自分の将来について広い視野から考えられるようにする。 2 キャリア・スタート・ウィークでの体験活動などを通して、望ましい職業観や勤労観を育成する。	1 進路について適切な情報を取得し、自分の特性や適性を踏まえてよりよい進路の選択ができるよう支援する。 2 将来の目標や夢をもち、その実現に向かって努力する態度を養う。

各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	その他
1 達成感や成就感を味わえるように、分かる授業や考える授業を心掛ける。 2 将来のよりよい生き方につながる基礎的知識や技能の習得・定着を図る。	1 多様な価値観や生き方について考えることを通して、よりよく生きようとする意欲や態度を育てる。 2 自己を見つめ、自分のよさや個性に気付き自己肯定感を高める。 3 社会の一員としての在り方を理解することから、働く意義を考えさせる。	1 集団生活を通じて集団や社会の一員としての自覚と責任をもち、生活に必要な基本的な態度を育てる。 2 職場体験などの啓発的な体験を通じ、職業や進路に対する関心と理解を深める。	1 自分の課題を捉え、職業や自らの生き方について考えを深めるために職場訪問や職場体験や社会人講話を行う。 2 自分の興味・関心や個性について理解を深め、進路選択に役立てることができるようにする。	1 進路相談に基づき、個に応じた指導や助言を行う。 2 保護者、地域との連携を図る。 3 関係諸機関との連携を密にする。